

Z字型に方向転換しながら急勾配を登る 三段式スイッチバック



広島県庄原市の備後落合駅^{びんごおちあい}と島根県松江市の宍道駅^{きすき}を結ぶＪＲ木次線。元は「たたら製鉄」で財をなした糸原家^{いとはら}が、「近代製鉄によって製鉄が衰退しても、鉄道があれば新たな産業が生まれる」と地元有志を募って推進し、大正５年(1916)に宍道―木次間が開業した^{ひのかみ}簸上鉄道です。その後昭和９年(1934)に国鉄経営となり、同１２年に八川から備後落合間が開通したため山陽側の芸備線とようやくつながりました。地元の願いを託された木次線は、沿線の「木炭」輸送で地域を支えたといわれています。

奥出雲町出雲坂根駅^{いずもさかね}（標高 564 m）から三井野原駅^{みののほら}（標高 726 m）まで直線距離では 1km 程ですが、162 m の標高差を上る必要がありました。このため、２回にわたって列車の進行方向を前後逆にしながら上っていく三段式スイッチバックと 9 本のトンネル（両駅間距離：約 6.4km）で三井野原駅まで建設されました。ＪＲ西日本管内ではここだけで見ることができる折り返し方式です。八川駅から出雲坂根駅に向う「奥出雲おろち号」は、写真１のように客車が先頭で白のヘッドライトが点灯していますが、次に２段目スイッチバックに向かう時は客車が後ろになるため赤いテールランプが点灯しています（写真２）。

地元の大きな期待を担って山陽側とつながった木次線でしたが、おろちループ（国道 314 号）や高速道路の整備などにより、人・モノの移動は鉄道から道路へと変わっています。現在、ＪＲ木次線（出雲横田～備後落合）は一日 3 往復というダイヤ編成ですが、中山間地域の重要な公共交通として、通学や買物などに利用されています。あわせて豊かな自然景観をはじめ温泉や食の恵みなど沿線に多くの地域資源を有する路線で、４月から 11 月の週末には、トロッコ列車「奥出雲おろち号^{*}」も 1 日 1 往復運行されています。

100 年以上前に地域の繁栄を願って開業した鉄道が、観光という地域振興に新たなチャレンジです。かつてスイッチバックを上った蒸気機関車 C 56-108 も、木次体育館横（雲南市）で応援しています。

■位置図



木次方面よりスイッチバック 1 段目を登って出雲坂根駅へ向かう上り列車（写真 1）



出雲坂根駅（標高 564 m）より 30% のスイッチバック 2 段目で三井野原駅（標高 726 m）に向かう奥出雲おろち号（写真 2）



おろちループを見下ろしながら走るトロッコ列車「奥出雲おろち号」



スイッチバック 3 段目（左）と 2 段目（右）の折り返し地点。積雪からポイントを守るために屋根が設置されている。

※ ４月～１１月は金・土・日曜日、祝日。ただし夏休み・紅葉シーズンは毎日、運行。